



オーストラリアの人事戦略で成功する為には その31

最近の比較文化データでオーストラリア・イギリス・アメリカ・日本を数字で比較するおもしろい資料がありますのでご報告したいと思います。

《権力志向型：オーストラリア36・イギリス35・アメリカ40・日本54》

オーストラリアとイギリスは約3人に1人と権力志向率が一番低く、政府機関等に反抗する人が多い、これに対し日本は54で2人に1人という、国際的には平均的な権力志向型であるという数字が出ております。よって米英法の国では反政府主義の方が多いと読み取ることができます。

《個人主義：オーストラリア90・イギリス89・アメリカ91・日本46》

協調性の高い日本は最も数字が低く、個人主義の割合はオーストラリアの約半分であります。また、9割の人が個人主義のオーストラリアでは協調性のある人はごく少数であることが判ります。

《文盲率：オーストラリア39・イギリス34・アメリカ38・日本5》

オーストラリア・イギリス・アメリカでは約3人に1人が新聞が読めないという結果に対し、日本でははるかに低い20人に1人の割合であります。日本の文盲率が低いのは教育機関や文部科学省などの教育制度によるもので、オーストラリアの学校では教科書の指定もないなど、日本との教育に対する大きな文化の違いが見られます。

《長期思考型：オーストラリア31・イギリス25・アメリカ29・日本80》

日本では5人に4人、オーストラリアでは10人に3人、もっとも低いイギリスではこの中で一番福祉国家であるために、4人に3人はあまり先の事を考えていないという結果が出ております。また、クレジットカード等の負債が多いのもオーストラリア・イギリス・アメリカとなっております。

《不安回避型：オーストラリア51・イギリス35・アメリカ46・日本92》

約9割の日本人は不安を回避しようと努力するのに対し、オーストラリアでは2人に1人、イギリスではなんと3人に1人しか回避する人がいないという結果が出ております。また、不安回避型の高い日本では国民は貯金型、それに対しオーストラリア・イギリス・アメリカ等不安回避型の低い国では、国民は不動産や株などへの投資型となっております。

この比較文化データから見ますと、長期思考型の高い日本は、他国と比べ教育機関の体制の違いもあり、家庭が教育面で子供に投資する傾向にあります。実際、オーストラリアではオフィスワークのできる方は労働人口の約6割にしか達しておらず、日本では約9割5分にまで達しております。単に数字から見ますと、職場で上司の指示に従うのはオーストラリアで約3人に1人、日本では約2人に1人であり、これはオーストラリアの個人主義と日本の封建的社会性による違いであると思量されます。

